

# ラシーヌ関係文献目録

戸口民也

情報更新 2012年8月23日

## 邦語文献

### 1. テキスト

『ラシーヌ戯曲全集Ⅰ・Ⅱ』伊吹武彦・佐藤朔編集、人文書院、1964-65年。

#### 第1巻：

- ラ・テバインド（鬼頭哲人訳）
- アレクサンドル大王（福井芳男訳）
- アンドロマック（渡辺守章訳）
- 裁判きちがい（川俣晃自訳）
- ブリタニキユス（安堂信也訳）
- ベレニス（伊吹武彦訳）

#### 第2巻

- バジャゼ（鬼頭哲人訳）
- ミトリダート（田中敬次郎訳）
- イフィジェニー（川口篤訳）
- フェードル（伊吹武彦訳）
- エステル（戸張智雄訳）
- アタリー（佐藤朔訳）

『ラシーヌ』鈴木力衛編、筑摩書房（世界古典文学全集48）、1965年。

- ラ・テバインド（渡辺清子訳）
- アレクサンドル大王（大島利治訳）
- アンドロマック（安堂信也訳）
- 裁判きちがい（鈴木力衛・鈴木康司訳）
- ブリタニキユス（渡辺守章訳）
- ベレニス（戸張智雄・戸張規子訳）
- バジャゼ（安堂信也訳）
- ミトリダート（渡辺守章訳）
- イフィジェニー（戸張智雄・戸張規子訳）
- フェードル（二宮フサ訳）
- エステル（福井芳男訳）
- アタリー（渡辺義愛訳）

『ラシーヌ戯曲全集Ⅱ』渡辺守章訳、白水社、1979年。

- ブリタニキユス
- ベレニス
- バジャゼ
- ミトリダート
- （Ⅱのみ刊行）

『世界文学全集 11 コルネイユ ラシーヌ モリエール』講談社、1978年。

- アンドロマック（戸張規子訳）
- ベレニス（戸張規子訳）

イフィジェニー（戸張規子訳）

フェードル（戸張智雄訳）

『ラシーヌ劇集1』原光訳、私家版（サボテン叢書）、1989年。

『フェードル／アンドロマック』渡辺守章訳、岩波書店（岩波文庫）、1993年。

『ブリタニキウス／ベレニス』渡辺守章訳、岩波書店（岩波文庫）、2008年。

『ポール＝ロワイヤル略史』金光仁三郎訳、審美社、1989年。

「一キリスト教徒の嘆き、自身の内に感じる対立について／今世紀の人々の心を占める空しい事について」安藤俊次訳、『フランス詩大系』窪田般弥責任編集、青土社、1984年、pp. 244－246。

## 2. 参考文献

- アウエルバッハ（E.）「偽信者」「中断された晩餐」、『ミメシス・下』篠田一士・川村二郎訳、筑摩書房（筑摩叢書）、1967年、pp. 112－186。
- 朝比奈誼「ラシーヌの文学 —— 情念とく隠れた神」、饗庭孝男・朝比奈誼・加藤民男編『フランスく知くの新しき地平から』有斐閣、1984年、pp. 107－119。
- アダン（アントワヌ）「ラシーヌの悲劇」、『フランス古典劇』今野一雄訳、白水社（文庫クセジュ）、1971年、pp. 81－110。
- アポストリデス（ジャン＝マリー）『機械としての王』水林章訳、みすず書房、1996年。
- アポストリデス（J.-M.）『犠牲に供された君主：ルイ14世治下の演劇と政治』矢橋透訳、平凡社、1997年。
- 綾部友治郎「ラシーヌの情念」、『玉川学園創立50年記念論文集1』玉川学園大学、1980年、pp. 1－22。
- アリエス（フィリップ）「生と死への態度 —— ラシーヌにみる17世紀の受胎率」、『「教育」の誕生』中内敏夫・森田伸子訳、藤原書店、1992年、pp. 70－73。
- 伊地智均「十七世紀フランス古典悲劇と近松劇における悲劇性の研究」、『17世紀日本の比較文化論的研究』（昭和58年度科学研究費補助金一般研究B研究成果報告書）、東北大学、1984年、pp. 46－49。
- 伊藤洋「ラシーヌと純粹透明な悲劇」、『フランス演劇史概説』（新装版）、早稲田大学出版部、1995年、pp. 86－93。
- ヴァレリー（ポール）「女性フェードルについて」二宮フサ訳、『ヴァレリー全集8』、筑摩書房、1967年。
- エイベル（ライオネル）「アタリヤの宿命 —— そしてラシーヌ」高橋康也・大橋洋一訳、『メタシアター』朝日出版社、1980年、pp. 34－86。
- 小倉博孝「南仏ユゼスのジャン・ラシーヌ」、田辺保編『フランス わが愛』青山社、2000年、pp. 31－50。
- 小田桐光隆編『ラシーヌ劇の神話力』Sophia University Press上智大学、2001年。
- 小場瀬卓三「古典主義 —— モリエール、ラシーヌ、ラ・フォンテーヌ、ボワロー、貴族作家」、『フランス・レアリスム研究序説』世界評論社、1950年、pp. 74－163。
- 小場瀬卓三「『ブリタニキウス』小論」、『演劇鶏肋集』未来社、1963年、pp. 204－224。
- 小場瀬卓三『バロックと古典主義、17世紀フランス文学の諸問題』白水社、1978年。
- 金光仁三郎『ラシーヌの悲劇』中央大学出版部、1988年。
- 鬼頭哲人「ジロドゥの『ラシーヌ論』」、『佐藤朔教授還暦記念論文集』慶大芸文学会、1967年、pp. 25－30。
- グラック（ジュリアン）「『バジャゼ』について」、『偏愛の文学』中島昭和訳、白水社（白水叢書）、1978年、pp. 189－212。
- グレットウイゼン（ベルンハルト）「ラシーヌとコルネイユ」、『フランス革命の哲学』井上堯裕訳、法政大学出版局（りぶらりあ選書）、1977年、pp. 11－13。

- 桑原武夫『桑原武夫集1 (1930-45)』岩波書店、1980年、(「ラシーヌへの道」p. 257-276、「芸術家の実生活と作品」pp. 399-410)。
- ゴルドマン (リュシアン) 『隠れたる神 —— パスカルの「パンセ」とラシーヌ劇における悲劇的世界観の研究』上下、山形頼洋・名田丈夫訳、社会思想社 (社会思想叢書)、1972-73年。
- サント=ブーヴ「ラシーヌ論 —— 『ポール・ロワイヤル』第6巻第11章より」支倉崇晴訳『世界批評大系1 —— 近代批評の成立』筑摩書房、1974年、pp. 199-224。
- 篠沢秀夫「テキスト研究 —— ラシーヌ『フェードル』」、『篠沢フランス文学講義1』大修館書店、1979年、pp. 406-412。
- 篠田浩一郎「幽閉された人びと —— Homo Racinianus」、『ロラン・バルト —— 世界の解説』岩波書店、1989年、pp. 81-97。
- シャンピオン (ピエール) 「ジャン・ラシーヌの家」有田英也訳、『わが懐かしき街』図書出版社、1992年、pp. 206-238。
- 白井浩司「ギユマンのラシーヌ論」、『純粹観客 —— 現代フランス文学拾遺』大光社、1970年、pp. 225-230。
- ジロドゥ (ジャン) 「ラシーヌ論」岩瀬孝訳、岩瀬孝『古典劇と前衛劇 —— フランスと日本』朝文社、1991年、pp. 268-319。
- 杉捷夫「ラシーヌの悲劇と三単一の規則」、『フランス文学論』酣燈社、1947年、pp. 58-68。
- 鈴木康司「ジャン・ラシーヌ『ベレニス』」、『スタンダード・フランス語講座 (8) 文学鑑賞』大修館書店、1972年、pp. 164-169。
- スタロバンスキー (ジャン) 「ラシーヌと視線の詩学」、『活きた眼』大浜甫訳、1971年、pp. 87-112。
- スタンダール「ラシーヌとシェイクスピア」島田尚一・西川長夫訳、『スタンダール全集10 —— 文学論集』桑原武夫・生島遼一編集、人文書院、1973年、pp. 1-164。
- ストレイチー (リットン) 「ラシーヌ」小佐井伸二訳、『世界批評大系2 —— 詩の原理』筑摩書房、1974年、pp. 265-282。
- ソーニエ (V.-L.) 「ラシーヌ」、『改訳17世紀フランス文学』小林善彦訳、白水社 (文庫クセジュ)、1965年、pp. 113-118。
- 高沖陽造「ラシーヌの宮廷文学」、『世界文学 —— ダンテからジイドまで』評論社、1949年、pp. 88-96。
- 高橋安光「文人たちの旅 —— 古典主義時代に入って」、『旅・戦争・サロン 啓蒙思想の底流と源泉』法政大学出版局、1991年、pp. 44-48。
- 田中敬次郎『ラシーヌ研究』社会思想社 (社会思想叢書)、1972年。
- 田村真理「言語行為としての神託 —— 『イフィジェニー』をめぐる」、『フランス文学と芸術における自然と人間の発見』泉敏夫編著、行路社、1990年、pp. 21-36。
- ドゥコー (アラン) 「ラシーヌをめぐる二人の女優」、『フランス女性の歴史2 —— 君臨する女たち』柳谷巖訳、大修館書店、1980年、pp. 36-39。
- 戸張智雄『ラシーヌとギリシア悲劇』東京大学出版会、1967年。
- 戸張規子『ブルボン家の落日 —— ヴェルサイユの憂愁』人文書院、1991年、(「悲劇作家ラシーヌ」pp. 142-149、「ラシーヌの裏切り」pp. 150-154、「悲劇女優の誕生、デュ・パルク嬢、ラ・シャンメレ嬢」pp. 154-158)。
- 戸張規子『フランス悲劇女優の誕生』人文書院、1998年。
- ドムナック (ジャン=マリー)、『悲劇への回帰』岩瀬孝訳、中央公論社、人文書院、1987年。
- 中村雄二郎「崇高なる人間ざらいたち」、『思想の歴史10 —— ニーチェからサルトルへ』清水幾太郎編、平凡社、1966年、pp. 23-47。
- ニデール (アラン) 『ラシーヌと古典悲劇』今野一夫訳、白水社 (文庫クセジュ)、1982年。
- ノーマンド (バーリン) 「情念 —— 『ヒッポリュトス』『フェードル』『楡の木陰の欲望』」、『悲

- 劇、その謎』長田光展・堤和子・若山浩訳、新水社、1987年、pp. 102-119。
- バルト（ロラン）「ラシーヌはラシーヌだ」、『神話作用』篠沢秀夫訳、現代思潮社、1967年、pp. 80-82。
- バルト（ロラン）『ラシーヌ論』渡邊守章訳、みすず書房、2006年。
- ブランシェ（A.）「太陽と夜のあいだのフェードル」、『文学と霊なるもの —— 火の夜』田辺保・原田武訳、思潮社、1972年、pp. 87-123。
- ブランショ（モーリス）「『フェードル』の神話」、『踏みはずし』神戸仁彦訳、村松音館、1978年、pp. 91-98。
- プーレ（ジョルジュ）「ラシーヌ的時間覚え書」二宮フサ他訳、『人間的時間の研究』筑摩書房（筑摩叢書）、1969年、pp. 142-158。
- ペイル（アンリ）「情熱の悲劇 —— ラシーヌの『フェードル』」、クリアンス・ブルックス編『悲劇の系譜 —— ソポクレスからエリオットまで』大場建治・赤川裕訳、至誠堂、1968年、pp. 95-128。
- ベガン（アルベール）「夜のフェードル」、『現存の詩』小浜俊郎・後藤信幸・山口佳己訳、国文社、1975年、pp. 103-110。
- ベニシュ（ポール）「ラシーヌ」、『偉大な世紀のモラル —— フランス古典主義文学における英雄的世界像とその解体』朝倉剛・羽賀賢二訳、法政大学出版局（ユニベルシタス叢書）、1993年、pp. 164-201。
- 真下弘子「ラシーヌの演劇神学 —— 『イフィジェニー』の場合」、『友情の微笑み —— 山崎庸一郎古希記念』みすず書房、2000年。
- 三島由紀夫「芸術断想」、『三島由紀夫全集31 評論7』新潮社、1975年、pp. 47-120。
- 三島由紀夫『三島由紀夫評論全集3』（田中美代子解題）新潮社、1989年、（「『ブリタニキユスのこと』」pp. 690-691、「ラシーヌの季節来る」p.726、「異国趣味について」p. 728、「『ブリタニキユス』修辞の弁」pp. 758-759、「修辞者あとがき」pp. 763-766、「『芙蓉露大内実記』について」pp. 873-874.）
- 三島由紀夫「舞台のさまざま」、『三島由紀夫評論全集4』（田中美代子解題）新潮社、1989年、pp. 15-19。
- モリアク（F.）「ジャン・ラシーヌ伝」田中敬次郎訳、田中敬次郎『ラシーヌ研究』社会思想社（社会思想叢書）、1972年、pp. 3-126。
- 矢代静一「フランス古典劇 —— ラシーヌ『ブリタニキユス』」、『現代の演劇1』千田是也・田中千禾夫監修、三笠書房、1965年、pp. 124-131。
- 矢橋透「はじめに、噂=ノイズがあった... —— ラシーヌ『フェードル』における登場人物の「感覚の不確実さ」 —— 」、『劇場としての世界 —— フランス古典主義演劇再考』、水声社、1996年、pp. 255-282。
- 山中知子『ラシーヌ、二つの顔』人文書院、2005年。
- 山中知子「ラシーヌ『フェードル』 —— 母と息子」、上村くにこ・西川祐子編『フランス文学／男と女と』勁草書房、1991年、pp. 39-59。
- 吉江喬松「仏蘭西古典悲劇研究ーラスイヌの悲劇」（『吉江喬松全集第一巻』所収）白水社、1941年。
- リピエッツ（アラン）『なぜ男は女を怖れるのか —— ラシーヌ「フェードル」の罪の検証』千石玲子訳、藤原書店、2007年。
- ルージュモン（ドニ・ド）『愛について —— エロスとアガペ』鈴木健郎・川村克己訳、岩波書店、1959年、（「ラシーヌあるいは鎖をはなれた神話」鈴木健郎訳、pp. 298-300、「『フェードル』あるいは罰をうけた神話」鈴木健郎訳、pp. 301-305）。
- ルーセ（ジャン）「ラシーヌ」、『フランスバロック期の文学』神沢栄三訳、筑摩書房、1970年、pp. 371-374。

- ロオラン（ロメン）「古典悲劇（ラシーヌとコルネエユ）」大杉栄訳、『民衆芸術論』（長谷川泉解説）、日本図書センター、近代文芸評論叢16、1992年、pp. 14-25。
- 渡邊守章「ラシーヌと演劇」、『フランス文学講座（4）演劇』大修館書店、1977年、pp. 180-229。
- 渡邊守章「修辞学炎上」、『虚構の身体』中央公論社、1978年、pp. 302-307。
- 渡邊守章「ラシーヌ悲劇の構造」、『虚構の身体』中央公論社、1978年、pp. 284-301。
- 渡邊守章編著『「フェードル」の軌跡』新書館、1988年。
- 渡邊守章「<火>の神話学」、『演劇とは何か』講談社、1990年、pp. 59-67。
- 渡邊守章「古典主義の頂点 —— ラシーヌ悲劇」、『フランスの文学 —— 17世紀から現代まで』放送大学教育振興会（放送大学教材）、1998年、pp. 79-99。